

モリサワのいまをお届けする【モリサワマガジン】

ISSUE
10

Morisawa Magazine

2021-22 | WINTER



文字がつながる筆書体「澄月」
開発者インタビュー

P.5 モリサワは「イクボス」の実践を推進します

P.6 東京2020大会と公式フォント

P.8 モリサワ 2021年の出来事



遠藤由布子氏

文字がつながる筆書体「澄月」
開発者インタビュー



新井尚子氏

モリサワ2021年新書体の一つである「澄月」は、書家による筆文字をベースにしたというのびやかな風合いを持ち、連綿体(つづけ字)の機能を備えたデザイン書体です。開発に携わった東京フォントデザイン課の新井尚子氏、フォント技術課の遠藤由布子氏に、デザイナーとエンジニアというそれぞれの立場から、澄月の特徴や制作の背景を語っていただきました。

モリサワの技術を詰め込んだ自信作

澄月は、文字を打ち込むだけで流れるように文字がつながり、まるで筆で書いたような風合いが出せる書体です。実際に書家が書いた文字をベースにデザインを起こしたという経緯があり、デジタルフォントでありながらも手書きのイメージを出すために、デザイン上でも技術面でも、さまざまな工夫が施されています。

デザイナーの一人、新井尚子氏は、30年以上フォントデザインに携わってきたベテラン。それでも、これまで携わってきた書体とは違う難しさがあったといいます。「手書きを再現した書体であることが最大のポイントであり、苦労した点です。書家さんが書いた文字が持つ、のびやかで優しい雰囲気はどうやったら近づけるか。新しく作った文字が手書きの文字と違和感がないか。デザイナー同士で、書道の知識やこれまでの経験を踏まえて何度も意見を交わしながら、試行錯誤していきました」と、制作当時の様子を振り返ります。

澄月は、同じ部首の文字でも少しずつ形が異なるという

特徴があります。たとえば、“木へん”だけでも10種類ほどのパーツを用意し、組み合わせることで、より手書きの風合いに近づけるようにデザインされています。かなのバリエーションも豊富で、たとえば「あお」「あめ」と打った時のそれぞれの「あ」の形が微妙に異なっています。他にも、漢字・かなともにフルプロポーション(個々の文字ごとに文字詰め情報を設定している)であること、変体仮名も搭載していること、さらに、最も大きな特徴として、連綿体があることが挙げられます。文字を打っていくと、複雑な設定をしなくても自然に前後の文字がつながり、行書風の表現が可能に。また、連綿体の自動発動を解除(OpenType機能の「前後関係に依存する字形」を解除)すると、たとえば「たのしい」という言葉を入力するときに、「の」と「し」を続けるのか、「し」と「い」を続けるのか、選んで使用することもできます。表現の自由度が高く、より豊かな表現へとつながる機能が詰め込まれています。使用シーンとしておすすめなのは、和菓子のパッケージや料亭のメニューといった和風な表現。ま

● 澄月の特徴

美味い茶碗蒸し
 ご挨拶申し上げます
 楽しんでいただろう
 かくーごとはなしよ

▲ 連綿体を搭載

おてもと
 志るふ
て も と

▲ 変体仮名を搭載

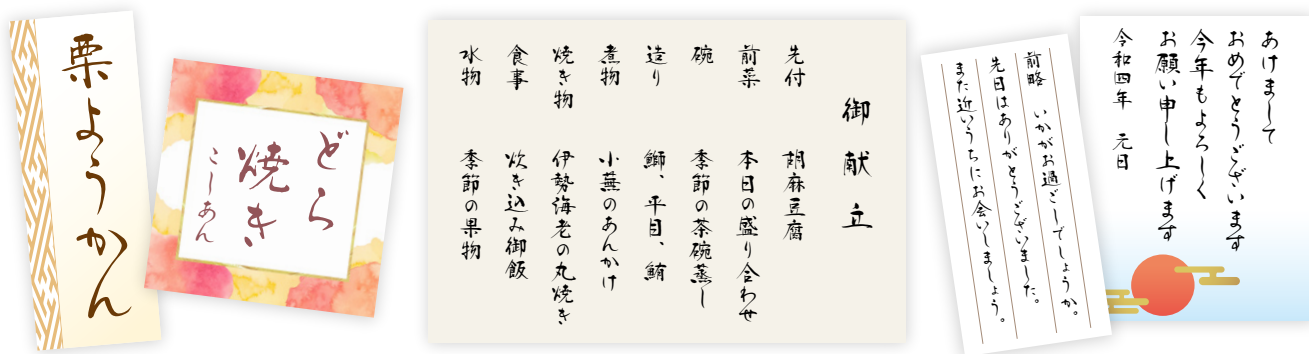
あお あめ あ
あお あめ あ

▲ 「あお」と「あめ」でそれぞれの「あ」の形が異なっているなど、かなのバリエーションが豊富

杵 樹 村 札

▲ 同じ木へんでも数種類のパーツをつくり、漢字によって形を変えている

● おすすめの使用シーン



和菓子のパッケージや料亭のメニュー、手紙などにおすすめです

た、あたたかみのある手書き表現が似合い、年賀状や手紙にもマッチする、上品で風格のある書体に仕上がりました。

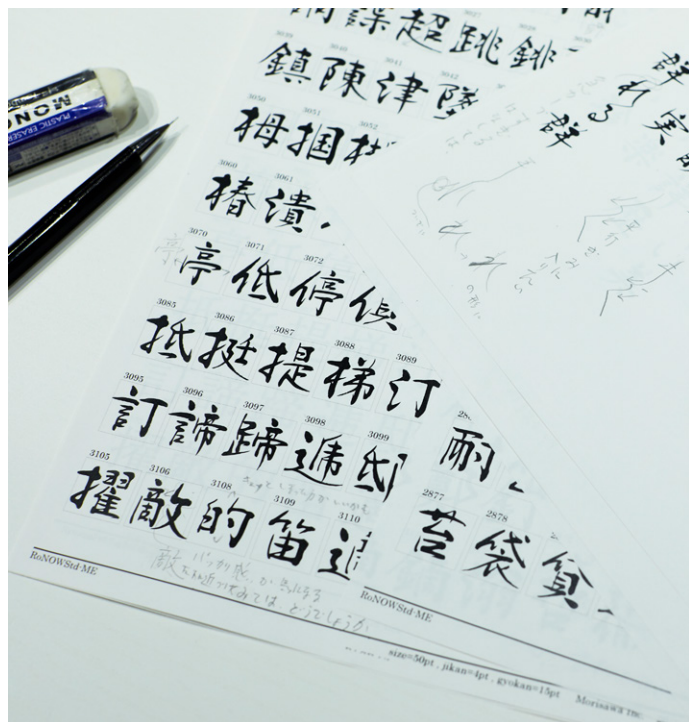
澄月の制作がスタートしたのは2018年。連綿体といえば、モリサワには既に「みちくさ」という書体がありますが、澄月が行書風のデザインである一方で、みちくさは明朝体風のデザイン。みちくさの文字詰めはベタ組みで、線の太さにあまり変化はなく、連綿の動きもあえて続けないようにしている点など、みちくさと澄月の特徴はそれぞれ大きく異なります。エンジニアとしてフォントの機能の実装に携わった遠藤由布子氏は、みちくさの制作にも携わっていました。また、自身の趣味が書道ということもあり、澄月のプロジェクトには自ら参加の声をあげたのだそう。「みちくさではできなかったこともチャレンジしたいと思っていたので、澄月の制作に関わることは念願でした。ユーザのみなさんには、『どの文字にしよう』と選びながら、多彩なOpenType機能を楽しんで使ってもらえたら」と想いを語ります。

綿密なやりとりを経て、 細部にまでこだわりを盛り込んだ

澄月のプロジェクトに携わったのは、企画担当が1名、メインのデザイナーが3名、エンジニアは3名が中心となり、3年ほどの期間の中で、メンバーが入れ替わりながら制作が進められました。通常のフォント制作では、デザインが決まってからエンジニアがフォント化の作業を行うといったように、分担して作業が進められますが、澄月の場合は、エンジニアとデザイナー、企画担当が並走して作業を進めていったのだとか。技術面でデザイナーの意見をとりいれたり、デザインをより活かすために、エンジニアからデザイナーへ提案をすることもあったといいます。東京と大阪の二拠点で、リモート上でのやりとりを進めながら、細かい調整を繰り返していきました。やりとりをする上で、新井氏は仕様を細かく記したフォント仕様書を作成。それぞれの文字の特徴や動作の優先順位を細部までまとめたことで、細かな認識をすり合わせるのにとっても重宝したのだそう。

「澄月が目指すフォントの仕様は、プロポーションである

(左)デザインの調整は細部にわたり繰返し行われた
(右)デザイナーとエンジニアが相互に協力して制作した



ことと、細かな設定をしなくても、インストールしたらすぐに連綿体が使えること、といった複雑な仕様でした。実装も時間がかかりましたし、検証するのも大変で、他のフォントよりも時間がかかりました」と遠藤氏。通常は1カ月で対応できるフォントもある中で、澄月は、フォントとしての機能を実装するのに1年以上を費やしたといいます。また、連綿にした時の文字同士の空きはどれくらいが美しいのかという、一見細かい点についても議論を重ね、プロジェクトメンバーに留まらず社内で意見をヒアリングし、自然さを追求したという裏話も。「手書きのリズムが崩れない、ギリギリのところを探って意見をまとめていきました。」複雑な仕様を搭載しつつ、緻密な検証を繰り返して、文字の美しさに対してもこだわり抜かれたことが伝わってきます。

デザイナーとエンジニア 互いに憧れと頼もしさを感じる存在

チーム一丸となって制作が進められた澄月。デザイナーとエンジニアという垣根を越えて、より良い書体を作るために互いにサポートやアドバイスをもらいながら、支え合って進んできました。「エンジニアさんは、デザインした文字を思い通りに使ってもらえるように、フォントとして形にしてくれる。頼もしい存在だと思っています」と新井氏。「とくに遠藤さんはデザインの知識があるので、文章組みについて意見ももらったり、アドバイスをたくさんいただきました」と語っ

てくれました。一方、遠藤氏にとってデザイナーは「憧れの存在」だといいます。「バランスよく文字をデザインしていくのが本当にすごいと思います。澄月の制作では、自分が判断できないところも、デザインの観点から判断してもらうことも多く、とても助けられました」と遠藤氏。互いにリスペクトを持って制作に臨んだことが伺えます。

このように、制作に関わった人々の思いを込めて作り上げられた書体がついに新書体としてリリースされました。新井氏は「デジタルフォントではありますが、あたたかみのある書体になりました。自分の手書きの文字と同様、自分の書体として使ってほしいです」、遠藤氏は「一つの単語をとってもいろいろな字形を組み合わせることができます。自分の好みを見つけてほしいです」と、澄月が多くの人に愛されるよう、期待を込めました。エンジニアとデザイナーの技術がぎゅっと詰まった「澄月」。今後いろいろなシーンで、多彩な表情を見せてくれることでしょう。

新井尚子 あらい・なおこ - タイプデザイナー

株式会社モリサワ フォントデザイン部 東京フォントデザイン課所属。
2011年事業譲渡によりモリサワに入社。前社では「本明朝-U」「Roゴシック新がな」の制作のほか、多くの書体制作に従事。近年は「澄月」をはじめ「UDデジタル教科書体」「赤のアリス」「白のアリス」などの漢字の拡張に携わる。

遠藤由布子 えんどう・ゆうこ - エンジニア

株式会社モリサワ フォント技術生産部 フォント技術課所属。
2016年モリサワに入社。組込書体などのエンジニアリング業務を担当。書体開発では「みちくさ」「澄月」の連綿書体に携わる。

モリサワは「イクボス」の実践を推進します

モリサワは、特定非営利活動法人ファザーリング・ジャパン主宰の「イクボス中小企業同盟」に加盟^{*}しました。
さらにモリサワ独自の「イクボス宣言」によって、働きやすい職場環境づくり、
従業員のパフォーマンスや成果の最大化に取り組めます。

^{*}「イクボス同盟」には2021年9月時点で上場企業240社、中小企業101社が加盟



調印式の模様。(左)特定非営利活動法人ファザーリング・ジャパン 代表理事 安藤哲也氏 (右)株式会社モリサワ 代表取締役社長 森澤彰彦

今回の取組みの意図について、代表取締役社長の森澤彰彦に聞きました。

◆「イクボス宣言」を作成した理由は？

仕事に対する価値観の変化へ柔軟に対応したい、という思いからです。たとえば、男性の育児休業に対しても、世の中の考え方が昔とは随分変わりましたよね。「男性は家庭より仕事が優先」という価値観があり、当社においても育児休業を取得する男性は昔はほとんどいませんでしたが、現在は、男性の育児休業取得が増えています。

今後、世代を問わず働きやすい環境を整えるためには、会社の中核を担う管理職がイクボスとしての意識を持ち、部下の家庭の事情なども理解しながらマネジメントすることが必要です。イクボス宣言を通じて、社内外への理解促進や浸透を図っていきたいですね。

◆具体的にどんな取組みを行う予定？

外部講師を招いた社員向けセミナーを開催します。管理職層はもちろん、ほかの社員もイクボスについて知ることで、社内での相互理解とコミュニケーション向上を図ります。加えて、今期より社内表彰制度に「イクボス賞」を設定します。これは社員がイクボスの実践を評価、推薦して選考するものです。優れたイクボスとして活躍した管理職を現場から評価することで、イクボスへの意識向上や実践を推進したいと考えています。

◆今後モリサワが目指す会社のあり方は？

それぞれの社員が多様な事情を抱えるなか、何かあれば助け合える関係、「お互い様」と思える文化を持っている会社でありたいですね。

そして、社外はもちろん、社内に対しても、人に優しい会社でありたい。社員が生き生き働くことで良いアイデアが生まれやすくなり、生産性も高まります。最終的には、より良い製品サービスに昇華することで、お客様や社会へと還元していきたいです。

「イクボス」とは

職場でともに働く部下・スタッフのワークライフバランスを考え、部下のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果を出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司や経営者、管理職のこと。

モリサワの「イクボス宣言」

- 1 社員のさまざまなバックグラウンドや価値観を尊重します
- 2 休みを取りやすい環境を整えて、仕事と生活の両立を支援します
- 3 チームワークで業務に取り組み、互いに助け合う風土を作ります

関連ニュースはこちら

www.morisawa.co.jp/about/news/6521



東京2020大会と公式フォント

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は、2021年9月5日に全日程が終了しました。1年延期された今大会では、さまざまなシーンで東京2020公式フォントが使用されました。



東京2020公式フォントについて

今夏開催された世界的スポーツイベント「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」で、モリサワは東京2020オフィシャルサポーター(フォントデザイン&開発サービス)として、東京2020公式フォント(和文・欧文)を提供しました。大会のブランドイメージのデザイン統一を図るため、イベント運営に関わる大会運営マニュアルや関係者パス、聖火リレートーチやメダルの刻印をはじめ、大会名称やチケット、広報誌など、東京大会に関するアイテムや印刷物のいたるところで公式フォントは使用されました。これらは大会終了後もさまざまな記録や記憶に生き続けるでしょう。

ここでは使用事例を一部ご紹介します。

施設や案内板での利用

東京2020公式フォントは「読みやすく」「わかりやすく」「読み間違えにくい」というユニバーサルデザインの視点で開発された専用フォントです。読みやすさの例として、ひらがなやカタカナの濁点、半濁点を大きくしたり、欧文小文字の「l」や「i」を読み間違えにくくデザインされています。

世界中の多種多様な人々が日本を訪れるため、施設の案内板や注意喚起バナーなどに日本語・英語併記で使用されました。



(左)マラソン競技モニュメント(札幌市)

(右)大会期間中の国立競技場に設置された案内サイン



写真：森田直樹/アフロスポーツ

▲会場周辺に設置された交通規制の注意喚起バナー

TOKYO 2020 8月4日 本日の注目競技			
DAILY SCHEDULE			
	スケートボード 女子パーク 予選・決勝	9:00~	NHK総合
	レスリング 女子フリースタイル62kg級 決勝ほか	18:15~	日本テレビ
	野球 準決勝 日本 vs 韓国	19:00~	NHK総合

*テレビ中継の時間・詳細は各局公式サイトよりご確認ください。

▲東京2020公式サイト(競技スケジュール表)

TOKYO2020 JPN (和文書体)

- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会
わかりやすく、読みやすく、読み間違えにくい文字 **L**
- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会
わかりやすく、読みやすく、読み間違えにくい文字 **R**
- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会
わかりやすく、読みやすく、読み間違えにくい文字 **DB**
- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会
わかりやすく、読みやすく、読み間違えにくい文字 **B**
- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会
わかりやすく、読みやすく、読み間違えにくい文字 **H**

TOKYO2020 (欧文書体)

- Olympic and Paralympic Games Tokyo 2020 **L**
Olympic and Paralympic Games Tokyo 2020 **L Italic**
- Olympic and Paralympic Games Tokyo 2020 **R**
Olympic and Paralympic Games Tokyo 2020 **R Italic**
- Olympic and Paralympic Games Tokyo 2020 **DB**
Olympic and Paralympic Games Tokyo 2020 **DB Italic**
- Olympic and Paralympic Games Tokyo 2020 **B**
Olympic and Paralympic Games Tokyo 2020 **B Italic**
- Olympic and Paralympic Games Tokyo 2020 **H**
Olympic and Paralympic Games Tokyo 2020 **H Italic**

さまざまなメディアでの表現

今大会のもようは、テレビ中継だけでなく、ネットを含むマルチな展開で全世界へ配信されました。

東京2020公式サイトでもWebフォントとしての利用が受けられました。

ブランドイメージを統一する
「オリジナルフォント」の利用が増えています

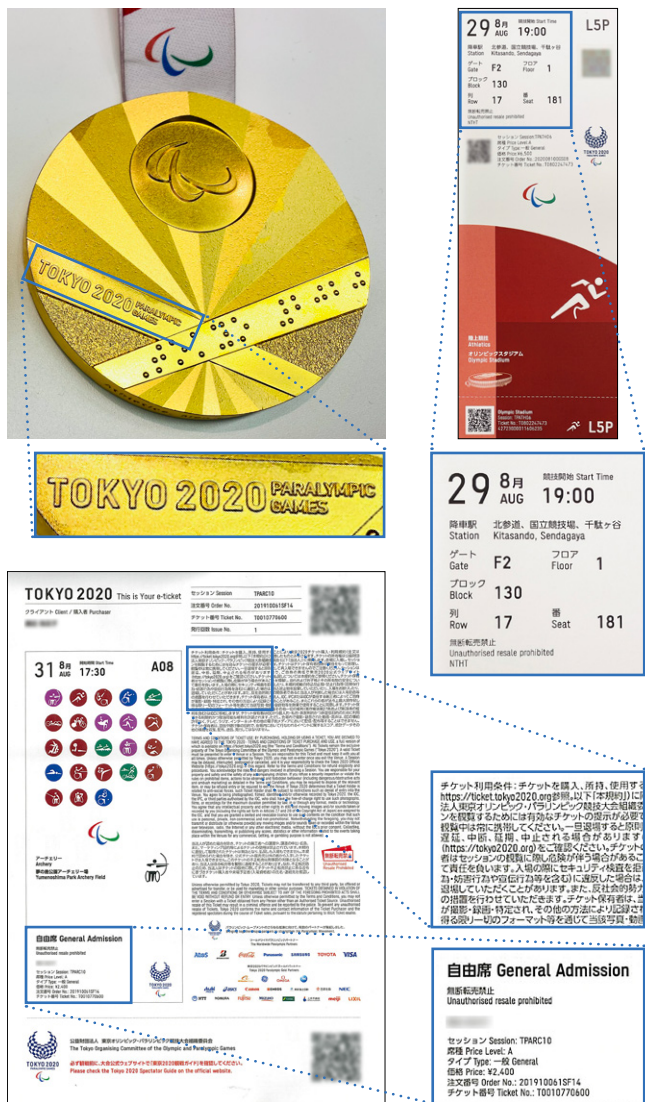
企業・イベント・プロダクトのブランドイメージを統一するために、「コーポレートフォント」や「オリジナルフォント」と呼ばれる専用のフォントを制定する事例が日本でも少しずつ増えてきています。

これまで文字数の少ない欧文フォントのみを使った欧米企業での実施例が多かったのですが、世界で活躍する多国籍企業が増えてきたことや、日本語フォントのデザインが充実し、企業イメージにマッチしたフォントが増えてきたことで、オリジナルフォントの利用の幅が増えてきています。

今後はブランディングとしてオリジナルフォントを活用する考え方が世界的に増えていくことでしょう。

オリジナルフォントに関するお問合せはこちら

www.morisawa.co.jp/products/fonts/embedding/original-font/



(左上)メダルの刻印 (右上)大会関係者チケット
(下)観戦中止当選者に配信された大会チケット記念PDF

モリサワ 2021年の出来事

東京2020大会に沸いた2021年も早いもので年の瀬となりました。

1年間のモリサワの出来事を年表形式で振り返ります。

●:モリサワの取組み ◆:協業の取組み

1月	● 2021年モリサワカレンダー「伝 紀貫之筆『寸松庵色紙』のかな」が「第72回全国カレンダー展」で銀賞、フジサンケイビジネスアイ賞を受賞 ◆ OpenTypeフォントの共同開発で株式会社写研と合意 ◆ 茨城県行方市と地方創生の連携協力に関する包括協定を締結 ◆ 株式会社三省堂の中学生向け国語・漢和辞典に「UD デジタル教科書体」採用
2月	● パラ陸上競技の佐藤友祈選手と所属契約を締結 ● モリサワのUDフォントが日経225選出企業の9割でIR資料に活用
3月	◆ 株式会社新興出版社啓林館の新サービス「Keirinkan マルチリンガル教科書」に「Catalog Pocket」が採用
4月	● 2021年モリサワカレンダーがドイツの国際カレンダー展で入賞 ◆ UD新ゴシリーズが富士フィルムビジネスイノベーションのコーポレートフォントに採用
5月	● 文字組版の教室(オンライン)開催
6月	● 2021年新書体ラインナップ発表
7月	● オフィシャルサポーター(フォントデザイン&開発サービス)として支援する東京2020オリンピック開催 ◆ WFPチャリティー エッセイコンテスト2021「こころのワクチン、私のごはん」～あなたのエッセイが途上国の給食に～に協賛
8月	● オフィシャルサポーター(フォントデザイン&開発サービス)として支援する東京2020パラリンピック開催 ● 当社所属の佐藤友祈選手が東京2020パラリンピック競技大会陸上競技男子400mT52および男子1500mT52において金メダルを獲得 ◆ 「天浜線フォントプロジェクト」静岡大学と天竜浜名湖鉄道株式会社が「天浜線フォント夏まつり2021」を開催
9月	● 文字組版の教室(オンライン)開催 ◆ IoT分野のフランス大手プロバイダーMicroEJ社と業務提携 ◆ 「イクボス中小企業同盟」に加盟 ◆ 「関西大学SDGsパートナー」に登録 ◆ 国連WFP世界食料デーキャンペーン2021「ゼロハンガーチャレンジ～食品ロス×飢餓ゼロ～」に協賛
10月	● 2021年新書体提供開始 ◆ 「SDGsさがみはらエコ宣言」に登録
11月	● 当社所属の佐藤友祈選手が紫綬褒章を受章 ● モリサワ会 秋季研修会開催

1年延期の末開催された東京2020大会。2月よりモリサワ所属となった佐藤友祈選手のパラリンピックでの大活躍は、記憶に新しいのではないのでしょうか。

また、SDGs的な企業経営が求められていく中でのパートナーシップ連携が増え、当社フォントの活躍の場が拡がりを見せる1年となりました。

Morisawa Magazine は「Catalog Pocket」で配信中!

デジタルブック「Catalog Pocket (カタログポケット)」にてMorisawa Magazineを毎月配信中です。[このアイコン](#)がある記事には、誌面未掲載の画像などが追加されています!



フォント男子!



業界初!? フォント擬人化コメディ漫画開幕!
Webコミックサイト「ヤングエースUP」にて無料掲載中!



お問合せ・ご要望は

ブランドコミュニケーション部広報宣伝課 E-mail: pr@morisawa.co.jp

WebサイトでのMorisawa Magazine閲覧は

www.morisawa.co.jp/about/morisawa-news

次号は 2022年3月発行 です



● 今号のフォント

表紙: Sharoa Pro Medium Italic / ExtraBold Italic
Backflip Pro Italic / Bold / Bold Italic

本文: 秀英四号かな+, UD新ゴNT (AP版) L / R / DB

見出し: 見出ゴMB31、黎ミンB、UD新ゴ(AP版) DB、Lutes UD PE Bold



株式会社モリサワ

本社 〒556-0012 大阪市浪速区敷津東2-6-25 Tel: 06-6649-2151
東京本社 〒162-0822 東京都新宿区下宮比町2-27 Tel: 03-3267-1231
仙台支店 〒984-0051 仙台市若林区新寺1-3-8 Tel: 022-296-0421
名古屋支店 〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-5-10 Tel: 052-201-2341

札幌営業所 〒001-0010 札幌市北区北十条西2-6 サウスシティ2F Tel: 011-700-0112
福岡営業所 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東1-3-25 Tel: 092-411-5875
鹿児島営業所 〒890-0051 鹿児島市高麗町11-3 下田ビル2F Tel: 099-252-2255